鉄砲洲神社　素読論語　解説
（平成 23 年 11 月 4 日）

子罕（しかん）　第九

4　子（し）　四つを絶（た）つ。意（い）毋（な）く、必（ひつ）毋（な）く、固（こ）毋（な）く、我（が）毋（な）し。

孔子は4つのことを絶対にしませんでした。その4つとは、自分勝手な私意をしない、無理押しをしない、固執しない、我を張らない。この 4 つのことを注意すれば良い人生が送れるでしょう。

余分ですけれども、毋は 3 つ似たような文字があります。

母（ぼ）は、真中に点が二つ入ると母（はは）という文字です。点二つが乳房の意味です。母と書く時に点を繋げてしまうと、＜おっぱいが一つしかないお母さん＞と云う意味になりますので、意識して点は二つ入れて下さい。

毌（かん）は、一貫・二貫という文字。右下に垂れているものがないと毋になります。

毋（な）は、（ぶ）とも読み、勿（なか）れという意味です。似た字が 3 つありますので、氣をつけた方が良いでしょう。

5　子（し）　匡（きょう）に畏（い）す。曰（いわ）く、文王（ぶんのう）　既（すで）に没（ぼつ）したれども、文（ぶん）　茲（ここ）に在（あ）らずや。天（てん）の将（まさ）に斯（こ）の文（ぶん）を喪（ほろぼ）さんとするや、後死（こうし）の者（もの）　斯（こ）の文（ぶん）に与（あずか）ることを得（え）ざるなり。天（てん）の未（いまだ）だ斯（こ）の文（ぶん）を喪（ほろぼ）さざるや、匡人（きょうひと）其（そ）れ予（われ）を如何（いか）にせんと。

孔子が匡で襲われたので警戒をしました。昔、陽虎が匡を襲った事があり、孔子の容貌が陽虎という人物に似ていたそうです。その地域の人が誤って孔子を陽虎と間違えて殺そうとしたので、弟子達が大変だと慌て騒ぎ恐れたので、孔子が「天が私を滅ぼそうとしているのなら、ここで死ぬけれども、天が私を滅ぼそうとするなんて有り得ない。何故ならば、周の文王は素晴らしい道（文化）を切り開き、今もその道は伝わっている。天が私も受け継いでいる文王の道を滅ぼそうとしない限り、私は生き抜いて道を守り、発展させていくと天から与えられた使命があるので、私がこんな所で死ぬわけがないので安心しなさい」と弟子達に向かって話されました。

現代風に置き換えますと、首相が外国の会議に出席し「日本は消費税を上げます。何故なら、日本は１千兆円もの借財があると公けには言っているが、実際は２千兆円を超

している。それだけの借財を背負って私は総理大臣の道を全うしようと思う。それは天が私に総理大臣という職を与えてくれた以上、日本は消費税を上げなければ、立ち行かなくなるのが目に見えているので、いかに与野党で足を引っ張る人達がいても、私は迷わずまっすぐ突き進んで、日本の国の為に使命を全うしたいと思う」と、論語のこの文章は現代において、このように解釈できると思います。

時の総理大臣が、そこまで天の使命を自覚していれば素晴らしい事ですが、そんな事はないだろうなと思いつつ話をしています。

6　大宰　子貢に問いて曰く、夫子は聖者か。何ぞ其れ多能なるやと。子貢曰く、固より天　之を縱す。将ど聖にして、又　多能なりと。子　之を聞きて曰く、大宰　我を知るか。吾　少きとき賤し。故に鄙事に多能なり。君子は多ならんや。多ならざるなりと。牢曰く、子云う、吾　試いられず。故に藝ありと。

大宰とは呉国の総理大臣の嚭（ひ）を指していると言われていますが、断定は出来ません。宗国とも言われています。

大国の総理が、弟子の子貢に「孔先生は聖人か」と質問をし、また「聖人なのに俗事に詳しく、能力があるのは聖人では無いのでは？」と聞きました。この当時「聖人」と云われる人物は、素晴らしい能力があるので、細かな雑事や俗事に力を発揮しないと思われていたのを理解して下さい。

子貢は「孔先生は聖人ではあるけれども、素晴らしい能力を持っているので、細かな事、雑事にも素晴らしい力を発揮しているのです」と苦しい返事をしました。

孔子はこの問答を聞いて、「総理大臣は私の事を知っているのだろうか、また多能という理由を知っているのだろうか。私が若い時に、微官職しかついてないから、そのため何でもやらないといけなく色々な事を自然と覚えたので、俗事に秀でているというのはそういう事情なのだ」

弟子の牢（子開）が次のように説明をしました。先生は色々と御苦労なさったから色々と知っているのだ。先生は「若い時に抜擢されず、一番下の官職の仕事しかしなかったから、芸が身についたのだ」と言われました。

この当時の常識では、立派な人物は多芸多能ではないという考え方が根底にありますので、このような会話が出てきたのです。